

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

対 象 第4学年1組 児童 24名

指導者 杉山 綾子

対 象 第4学年2組 児童 22名

指導者 村上 琢磨

1 単元名 「共に生きる」

2 単元の目標

高齢者や障害のある方が安心して生活するために必要なことを調べたり、体験したりすることを通して、高齢者や障害のある方の思いに気付き、共生社会の実現について考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①街には様々なユニバーサルデザインがあることを知り、誰もが安心して生活するために必要なことについて理解している。	①高齢者や障害のある方が安心して生活できるようにするにはどうしたらよいかを考え、分かりやすくまとめている。	①共生社会の実現のために、自分でできることに取り組むことを通して、自分と身近な環境との関わりを見直そうとしている。

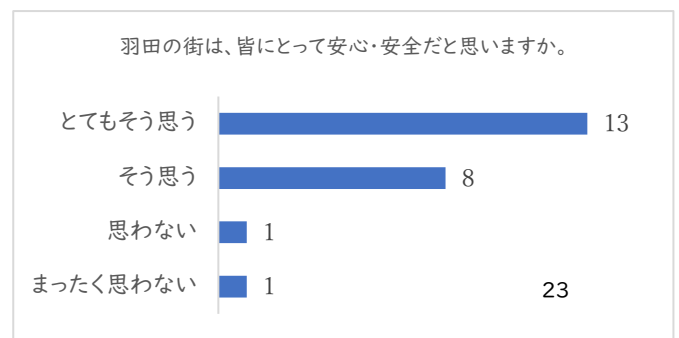
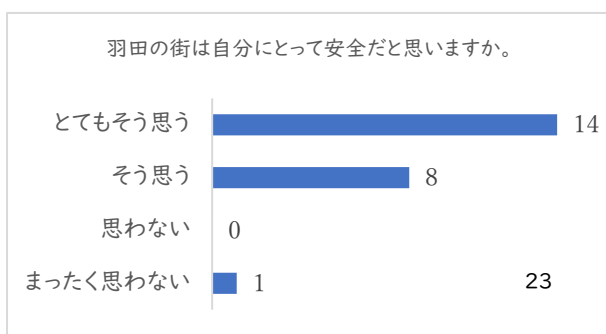
4 単元設定の理由

(1) 児童の実態

今まで社会科や道徳科でこどもたちは「共に生きる」をテーマに学習を行ってきた。そこで、児童がバリアフリーについてどのように捉え、考えているのかを調べるため、アンケート調査を行った。

4年1組

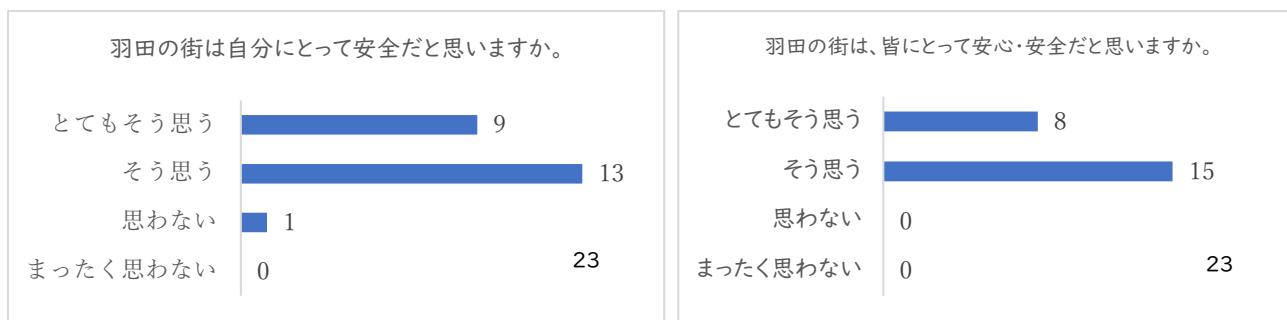
【羽田の街についてのアンケート】（質問紙法により7月18日実施 n=23）



～考察～

羽田の街の安全についてアンケートを取ると、23人中13～14人は「とてもそう思う」という結果であった。このように、自分にとって安心・安全であるならば、どの人にとっても安心・安全であると捉えていることが分かる。また、安心・安全であると考えた理由に関しては「不審者が出ないから」、「地震がないから」などに留まり、羽田の街や学校のバリアやバリアフリーについて言及している児童はいなかった。一方で、漠然と安全ではないと感じている児童も1～2名いることが分かった。

【羽田の街についてのアンケート】（質問紙法により 7 月 18 日実施 n = 23）



～考察～

羽田の街の安全についてアンケートを取ると、22 人中 12～15 人は「そう思う」という結果であった。このように、自分にとって安心・安全であるならば、どの人にとっても大体安心・安全であると捉えていることが分かる。また、安心・安全であると考えた理由に関しては「怖い思いをしていないから」、「困っていないから」などに留まり、1 組同様、羽田の街や学校のバリアやバリアフリーについて言及している児童はいなかった。

1 組、2 組共にこの学習を通して、児童が障害者や高齢者など様々な人の人権を自分事として捉え、「自分にもできる共生の在り方」に気づき、実際の行動へとつなげていくことを目指していく。

(2) 教材について

ア本単元の学習指導要領の位置付け

本単元の探究課題は学習指導要領第 2 の 3 (5) で例示されている『現代的な諸問題に対する横断的・総合的な課題』の解決にあたる。また、第 2 の 3 (6) を踏まえて、知識・技能について社会科の知識や特別の教科道徳の価値項目と関連付けることができるとともに、思考力・判断力・表現力について、課題の設定・情報の収集・整理分析・まとめ・表現などの探究的学習の過程で発揮できるようにする。

イ教材と系統性

本教材は、身近な地域や社会に目を向けながら、共生社会の実現について考えることを通して、「自分ごと」として人権や多様性の課題に向き合うことをねらいとしている。高齢者や障害のある方にとっての「困り感」や「バリア」に気付くことは、日常の中にある他者の視点に立つ第一歩である。児童が直接体験したり、地域の実際の施設を訪れたりすることによって、教科書では得られない実感を伴った理解につなげていくことができる。また、羽田という地域は、観光客や高齢者、外国人など、さまざまな人々が行き交う場である。だからこそ、共生社会に必要な「ユニバーサルデザイン」や「心のバリアフリー」の考えを、現実の場面に即して捉えることができる。この題材は、地域・福祉・人権といったテーマを横断しながら、児童一人一人の社会参画意識を育てることができる実践的な価値をもつ。

「教科の系統」

- 3 年……社会科：地域の施設や交通
道徳科：教材名「マサラップ」
- 4 年……社会科：地域の発展（福祉・環境）
道徳科：教材名「思いやりのかたち」
- 5 年……社会科：日本の国土・産業・情報
道徳科：教材名「誰もが幸せになれる社会を」

ウ指導観

本單元では、児童が自ら「気付き」「問い」「調べ」「考える」探究的な学びの過程を重視する。特に、「障害」や「高齢」といった外から見える属性だけでなく、「どんなときに困るのか」「どのような工夫があると安心できるのか」といった内面への想像力を働かせることが中心となる。

第8時では、これまでの体験（白杖・車いす・高齢者体験）や調べたことを基に、羽田空港という現実の場に視点を向け、見学に向けた問題意識をもたせる。本時のような「予想→実地→振り返り」という構成は、単なる知識の獲得にとどまらず、他者の立場で考えようとする態度を育てる基盤となる。

また、ICTの活用や話し合い活動を通して、自分の考えを言語化・共有・選択するプロセスを大切にし、研究主題である「自分も相手も大切にする言語能力」の育成を図っていく。特に、バリアを可視化するという行為そのものが、他者理解と自己変容への扉となり、探究的な学びの質を高めていくと考える。

5 人権教育の視点

障害者との交流や調べ学習等を通して、障害者の生活について理解を深めるとともに、障害者に対する偏見や差別意識を解消するために、障害がある人もない人も思いやりをもって支え合うことができる共生社会を実現しようとする意欲や態度を育む。

6 研究主題に迫るための手だて

○自分も相手も大切にする言語能力を育成するために取り入れる言語活動

【根拠をもって説明する力】

- ・体験や調べたことから得た事実や気付きを、具体的な根拠とともに言葉にし、聞き手に伝わるように話したり、書いたりする活動を取り入れる。
- ・グループ内での共有や、スライド作り、ワークシートへの記述などを通して、状況や感情を整理して表現する力を高める。

【相手の立場で考え、対話しようとする力】

- ・意見交流や話し合いの中で、相手の考えを受け止めた上で自分の意見を述べる場面を作る。
- ・言語活動を通して、互いの経験や視点を認め合い、協働的に探究する態度を育てる。

時	○学 習 活 動	*人権教育に関わる留意点等 ◆研究主題に迫るための手だて ◇評価
1	<p>○穴守稲荷駅の設備から、バリアフリーの存在、様々な困難を感じる人がいることを知る。</p> <p>○羽田の街が、誰もが安心して過ごせる街にするために必要なことについて、学習課題を見いだす。</p>	<p>*◆自分の周りの施設・設備、環境について、具体的にどのような配慮がされているかに気付かせ、交流させる。</p> <p>◇障害のある方の視点に立って考えようとしている。</p> <p>＜思－①＞（発言・ワークシート）</p>
	<div>羽田を誰もが安心して過ごせる街にするために、できることは何かを考えよう。</div>	
2	<p>○知的障害について知るワークショップを通して、感じたり、気付いたりしたことを話し合う。</p>	<p>*◆障害の名称だけではなく、困っていることやサポートの方法にも注目させる。</p> <p>◇障害者が困っていることやサポートの方法に関して知り、自分のできていることを考えている。</p> <p>＜思－①＞（発言・ワークシート）</p>
3 4	<p>○補助犬のワークショップを通して、感じたり、気付いたりしたことを話し合う。</p> <p>○高齢者体験・介助体験を通して、感じたり、気付いたりしたことを話し合う。</p>	<p>*実際に困難さを感じることで、介助の必要性や適切な介助の仕方に気付かせる。</p> <p>◆班ごとに協働して取り組めるようにする。</p> <p>◇実際に体験することで、障害となるバリアやそれを取り除くバリアフリーを目指すために自分にできることは何か考えている。</p> <p>＜知－①＞（発言・ワークシート）</p>
5	<p>○車いす体験・白杖体験・介助体験を通して、感じたり、気付いたりしたことを話し合う。</p>	<p>*操作のしやすさや安全性の確保など、様々な工夫がされていることに気付かせる。</p> <p>◆班ごとに協働して取り組めるようにする。</p> <p>◇実際に体験することで、障害となるバリアやそれを取り除くバリアフリーを目指すために自分にできることは何か考えている。</p> <p>＜知－①＞（発言・ワークシート）</p>
6	<p>○学んだことを踏まえて、実際にバリアフリーを見付けに行くことを知る。</p> <p>○様々な困難さを感じる人が安心して生活するために必要なことについて、学習課題を見いだす。</p>	<p>*児童の興味や関心に応じて、グルーピングする。</p> <p>◆班ごとに協働して取り組めるようにする。</p> <p>◇様々な困難さを感じる人が安心して生活するために必要なことについて、学習課題を見いだしている。</p> <p>＜思－①＞（発言・ワークシート）</p>
7 8	<p>○羽田空港見学に向けた計画を立てる。</p>	<p>*羽田空港にどんなバリアがあるかを予想させる。</p> <p>◆班ごとに意見をまとめさせる。</p> <p>◇バリアフリーに気づき、どんなバリアがあるかをまとめている。</p> <p>＜思－①＞（ワークシート）</p>

9	○羽田空港国内線・国際線第二ターミナルの施設は、障害のある方や高齢者にとってどのような工夫がされているかを見学する。	*◆役割を分担し、協力して理解を深めるようにする。 ◇バリアフリーに気づき、どんなバリアがあるかをまとめている。 ＜思－①＞（ワークシート）
10 11 12 4-2 本時	○見学したことを踏まえて、学習課題について気付いたことや分かったこと等をグループごとにまとめ、整理する。 ○前時までに調べたことを発表する。	*◆『心のバリアフリーノート』を活用し、バリアフリーに関する基本的な理解を深めるようにする。 ◇表現方法を工夫し、分かったことや気付いたことをまとめている。 ＜思－①＞（観察・ワークシート等）
13 4-1 本時	○学習を振り返り、学んだことについて話し合い、共生社会の実現に向けて自分の考えを「行動宣言」「区長への提案」にまとめる。	*◆『心のバリアフリーノート』を活用し、4つのバリア（①物理的バリア・②制度的バリア・③文化、情報面でのバリア・意識上のバリア）があることを改めて確認し、それらを解消するための方法を考えるようにする。 ◇4つのバリアを解消するための方法を考えている。 ＜主－①＞（観察・ワークシート）

8 4年1組の本時の指導（13／13）

（1）本時の目標

これまでの学びや体験、見学をふり振り返り、誰もが安心して暮らせる社会について自分の考えをもち、行動宣言や提案に向けた考えを深める。

（2）展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	*人権教育に関わる留意点等	◇評価【評価方法】 ◆研究主題に迫るための手だて
導 入	○これまでの学習を振り返り、本時のめあてと流れを確認する。 ・様々な立場の人が過ごしやすいように工夫されていることが分かった。	*本時の流れを掲示する。	
	羽田の町で誰もが安心して暮らせる社会について考えよう。		
展 開	○写真や動画で羽田の街の様子を見て、誰もが安心して暮らせる社会にするためにできることを考える。 ①個人で考える。（その際、根拠を明確にする。） ・高齢の方や視覚障害者の方が荷物を持っていたら、『手伝いましょうか』と言いたい。	*一方的な「守る・助ける対象」として捉えるのではなく、誰もが対等な存在として尊重されるべきであることを見直せるようにする。 *「かわいそう」「○○できないから○○してあげる」など、心のバリアとして表現が適切でない場合は、場面	◆話型を使い、根拠を示しながら自分の意見をまとめたり、広げたりするようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・羽田空港のように、学校の階段にも手すりがあったほうがよいと思う。 ・「かわいそう」と思うよりも、「一緒にできることって何だろう」と考えていきたい。 <p>② 考えをグループで共有し、友達の視点に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そんな考え方もあるのか。 ・そういう工夫もあるのか。 <p>③ 自分の考えを整理し、行動宣言や提案のアイデアをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、高齢の方が荷物を持っていたら、自分から『手伝いましょうか』という。また、他にも困っているかもしれないと思ったら、まずは声を掛ける。 	<p>ごとに問い返し、言葉の言い換えの支援を行う。</p> <p>＊友達の意見を否定せず、互いの感じ方の違いを大切にする交流になるようにする。</p> <p>＊「心のバリア」についても考えられるよう、行動だけでなく意識の変化にも価値があることを教師が認め、言語化を促す。</p>	<p>◇友達の考えを受けて自分の考えを広げようとしている。 <主-①>【観察】</p> <p>◇具体的な根拠をもって考えを表現している。 <思-①>【ワークシート】</p>
まとめ	<p>○振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽田の街をよりよくするためのアイデアを出すことができた。 ・バリアフリーについて学んだことを生かして生活したい。 	<p>＊児童の想いを、地域へ発信することで社会参画意識が高まるようにする。</p> <p>★スプレッドシートに振り返りを入力する。</p>	<p>◆羽田の街をよりよくしたいという気持ちを肯定的に受け止めるようにする。</p>

9 板書計画

<div>羽田の町で誰もが安心して暮らせる社会について考えよう。</div>	<div>今までの学習が想起できる写真</div>
<div>それぞれのグループの視点</div>	<div> こんな羽田の町に！ ・高齢の方が荷物を持っていたら… ・羽田空港のように、学校の階段にも… ・「かわいそう」と思うよりも… </div>

10 4年2組の本時の指導（12／13）

（1）本時の目標

羽田空港見学で見付けた、誰もが安心して過ごすために考えたことを発表したり、発表を聞いたりすることで理解を深める。

（2）展開

	○学習活動 ・予想される児童の反応	*人権教育に関わる留意点等	◇評価【評価方法】 ◆研究主題に迫るための手だて
導入	○これまでの学習を振り返り、本時のめあてと流れを確認する。 ・羽田空港の見学に行ってきた、グループごとに工夫を見付けてきた。	*本時の流れを掲示する。	
	羽田空港で見付けた工夫と、誰もが安心して過ごすために考えたことを発表しよう。		
展開	○グループごとに学んできたことを確認する。 ①各グループが見付けてきた工夫を発表する。 ・羽田空港には、高齢の方が安心して階段を利用するための手すりがあった。 ②聞き手は、聞いて考えたことをワークシートまたはスプレッドシートに書く。 ・自分にとっては利用しなくてもよいものでも、様々な立場の人のことを考えると絶対にあった方がよいと思った。 ③グループごとに感想交流をする。 ・ユニバーサルデザインは障害がある人だけでなく、みんなが安心して使える。 ・空港は様々な利用がしやすくなっていることが分かった。	*なぜそう考えたかの根拠を言葉で説明できるように促す。 *他のグループの意見を肯定的に受け取め、自分の考えをまとめられるように促す。 *自分の学びに、友達のことを取り入れてまとめられるようにする。	◆電子黒板やタブレット画面に表示された考えをよく見て、理解が深まるようにする。 ◇聞き手を意識して根拠立てて説明している。 <思-①>【ワークシート・スプレッドシート】 ◇様々な視点でユニバーサルデザインがあることを知り、自分の今までを見直そうとしている。 <主-①>【観察】
まとめ	○振り返りを行う。 ○次時の予告を聞く。	*「共に生きる」とはどういうことか、考える。 ★タブレットで振り返りを行う。	

Ⅰ Ⅰ 板書計画

<p>羽田空港で見つけた工夫と、誰もが安心して 過ごすために考えたことを発表しよう。</p>	<p>羽田空港見学での様子が分かる写真</p>
<p>それぞれのグループの視点</p>	<p>他のグループの発表を聞いて考えたこと</p>